

●検査内容について

検査内容	検査の目的・方法	発見される病気	注意事項等
胸部単純X線撮影検査	胸部のX線検査では肺や心臓・縦隔などを確認します。	肺炎・肺結核・肺がん 心肥大・肺気腫など	妊娠中の方、妊娠の可能性がある方の撮影は慎重に検討する必要があります。
上部消化管造影X線撮影検査 (胃バリウム検査)	食道・胃・十二指腸までのX線検査で、造影剤のバリウム剤を飲んで胃粘膜に付着させ撮影します。胃壁の凹凸や腫瘍・狭窄などを調べます。	食道がん・胃がん・十二指腸がん・潰瘍・ポリープ・食道裂孔ヘルニア・ポリープなど	妊娠中の方、妊娠の可能性がある方は撮影できない場合があります。検査前日の夕食以降は食事を抜いて頂き胃を空にする必要があります。病気が疑われる場合は胃カメラによる精査が必要となります。
頭部CT検査	コンピューターにより脳を輪切りにして立体的にX線撮影し病変の部位や大きさなど診断します。	脳梗塞・脳出血・脳腫瘍・慢性硬膜下血腫・アルツハイマー病など	妊娠中の方、妊娠の可能性がある方は撮影できない場合があります。ペースメーカーなどの医療機器がある方は必ず申し出てください。金属の装飾品などは外して頂きます。
胸部CT検査	コンピューターにより体内を輪切りにして立体的にX線撮影します。臓器を多角的に詳細に見れるので肺の奥深い病変など小さなものまで発見できます。	肺炎・肺がん・肺結核 気胸・気管支拡張症 胸部大動脈瘤・心疾患など	妊娠中の方、妊娠の可能性がある方は撮影できない場合があります。ペースメーカーなどの医療機器がある方は必ず申し出てください。金属のついた服や装飾品などは外して頂きます。
骨密度検査 (DEXA法)	「エネルギーX線吸収測定法」により骨に含まれるカルシウム量などを測定し骨密度測定をします。腰椎と大腿骨頸部の2か所を撮影します。	骨量減少症・骨粗鬆症・腰椎圧迫骨折や骨折のリスク予測など	金属やプラスチックは検査の妨げとなるので撮影用の検査着に着替えてもらう場合があります。人工股関節や脊椎の手術を既にかけている方は測定できない場合があります。
上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)	口から内視鏡を通して食道・胃・十二指腸を直接観察する検査です。異常病変がある場合は直接組織を採取して組織診検査ができ、早期胃がんの発見に大変有効です。	食道炎・食道潰瘍・食道がん・逆流性食道炎・胃炎・胃潰瘍・胃がん・胃ポリープ・十二指腸潰瘍・食道静脈瘤・胃静脈瘤など	咽頭部への麻酔や胃の働きを止める注射をします。事前に問診票で確認事項に記入して頂きます。希望者には意識下鎮静法で苦痛なく行えます。検査前日の夕食以降は食事を抜いて頂き胃を空にする必要があります。狭心症や前立腺肥大、緑内障の方など検査できない場合もあります。
大腸内視鏡検査	肛門から内視鏡を挿入し直腸・結腸・盲腸を観察します。直接カメラで内部を確認するのでX線では見つけにくい病変診断に優れています。ポリープやがんがあればその場で取り除いたり一部切除し組織診検査を行います。	大腸がん・大腸ポリープ・潰瘍性大腸炎・結腸憩室症・クローン病・虚血性大腸炎など	前もって大腸をきれいにする必要があります。前日から検査食を食べて頂き当日朝から禁食となります。下剤を前日と当日飲んで頂き、検査が開始されます。事前に問診票で確認事項に記入して頂きます。希望者には意識下鎮静法で痛みなく行えます。
肺機能検査	スパイロメーターを使って鼻をクリップで挟んで息が漏れないようにし、口にマウスピースを当てて息を吐く検査です。肺活量・換気量を測定します。	肺気腫・気管支喘息 気管支炎・肺線維症 肺炎・胸膜炎など	既に重い肺の病気や心臓病の方、高齢で体力がない方などは、負担がかかるので実施できない場合があります。
眼底検査	眼底鏡で眼底を観察しカメラで撮影します。瞳孔内部の黄斑や出血斑、視神経などを調べます。失明原因の糖尿病性網膜症や緑内障などの早期発見の決め手となります。	網膜剥離・緑内障・黄斑部変性・動脈硬化・高血圧や糖尿病による血管の病変・脳腫瘍など頭蓋内圧よる病変など	既に緑内障などで点眼治療中の方は申し出てください。コンタクトレンズをつけている方はできるだけ外した状態で検査が受けられるよう準備してください。コンタクトをつけた状態だときれいに撮影できない場合があります。
喀痰細胞診検査	痰(たん)を採取し、肺や気管支の細胞を調べます。	肺がん・咽頭がん・喉頭がんなど	細胞診検査で疑いの結果が出た場合は気管支内視鏡やCT検査など精査が必要です。